

Title	英國憲法史主要参考書
Sub Title	
Author	占部, 百太郎(Urabe, Hyakutaro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.1 (1927. 3) ,p.133- 138
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270300-0133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

英國憲法史主要參考書

本篇は余が近日發行せんとする『英國憲政史』の卷末に附したものである。『史學』編輯主任の請に任せて茲に掲載することとした次第である。

英國憲法史の參考書は、實に汗牛充棟といふ形容詞以上に多い。併し、茲には此題目に就いて研究せられんとする諸賢の爲に、今日比較的に得易い參考書——其の大部分は私の取扱つた材料——を左に列擧して、簡單なる評釋を加ふることにした。

W. Stubbs: Constitutional History of England, 3 vols.

草創時代から、チエードル王朝の初頭に亘る時期の、最も詳細にして、最も權威ある英國憲法史。ライブラリー・エディンガムと普通版とがある。

H. Hallam: Constitutional History of England, 3 vols.

ヘンリー七世の即位から、シオーツ二世の死去（一七六〇年）に至る時期を蔽ふて居る。多少晦澁なる筆致であるけれど、批判は嚴正公明であつて、今尙ほ此時期の一大權威たることを失はぬ。既にクラシックとして種々の版がある。

Sir T. Erskine May: Constitutional History of England, 2 vols. ; Volume III. continued by Francis Holland.

英國憲法史主要參考書（占部）

メーは一七六〇年から筆を起して一八六〇年に及び、ホルランドが其後を承けて一九一一年國會法通過に至つて居る。メーの書方は年代を追はずして、題目によつて史實を排列して居る所が、スタップスやハラムと歴史の取扱方を異にして居る。以上スタップス、ハラム、メー（ホルランド）の三大著が相連續して、英國憲法史の一大體系を成して居る。

F. W. Maitland: Constitutional History of England.

ケンブリッジ大學に於ける講義案に基いて成つたもので、英國憲法進展の跡をば、一三〇七年、一五〇九年、一六二五年、一七〇二年、一八八八年の五期に分けて叙述して居る。一冊本の英國憲法史としては、蓋し最も優れた最も深奥な著作であらう。余は此書に負ふところ最も多く、中には自由にこれより抄譯した節も少しはある。

Fawcett-Langmead: English Constitutional History.

これ亦一冊で全時代を蔽ふた好著である。大體に於て年代順であるが、題目によつて叙述した場合も少くない。一九一九年 Coleman Phillips が増補して、一九一八年の選挙法大改革までに及んで居る。本書の特長は根本史料から多くの本文を取入れて、然も文章の明快を失はぬ點である。大憲章以下重要な法典の全文を網羅して居るから、初學者には極めて便利である。

D. T. Medley: A Student Manual of English Constitutional History.

(三三) 一三三

問題によつて排列した全時期の英國憲法史である。六百三十二頁の中に餘り多く史實を籠めてあるから、少しく息苦しいが、英國大學生の受驗用には適當な教科書であらう。一九〇七年第四版。

Rudolph Gneist: Das Englische Verfassungsgeschichte
(The History of the English Constitution), translated
by P. A. Ashworth.

ガナイストの英國公法に關した著作は此他にも數多あるが、本書は就中最も纏つたものである。外國人の手に成る英國憲法史としては、蓋し最も權威あるものであらうが、多少文章難解の嫌がある。而して今は餘り行はれない。ガナイストには此書の外に Das englische Parlament (The History of The English Parliament) の著がある。

Hammis Taylor: The Origin and Growth of the
English Constitution, 2 vols.

著者は米國人で英國憲法の史實を年代順に取扱つたものである。外國人の書いた英國憲法史として、余の知れる限りに於て、これ以上の大作はないやうである。

Junius Hatschek: Englische Verfassungsgeschichte.

一九一三獨逸で發行せられた獨逸人の英國憲法に關する最新の而も最も纏つた研究である。叙述は編年體である。

George B. Adams: Constitutional History of England.

著書はエール大學の名譽教授で、蓋し米國に於ける英國史の最高權威であらう。本書は元來 American Historical Series の一冊として、寧ろ一般讀者若くは大學生の參考書として發行せられたものだけれど、悉く根本資料に憑據して書かれたファースト・ハンドの述作である。僅々五百餘頁の中にアングロ・サクソン時代から世界大戰後に亘る英國憲法進展の跡を叙述すると云ふことは、著者の如き老大家にしてはじめて遂げらるゝことである。英國史に關する一通りの豫備知識ある人に取つては、好個の參考書であらう。アダムス教授には

The Origin of the English Constitution.

及びスナイヴェン教授との合著

Adams & Stephens: Select Documents of English
Constitutional History.

等の英國憲法史に關する著述がある。

W. Stubbs: Select Charters and other illustrations of
English Constitutional History, from the earliest times to
the reign of Edward the First.

G. W. Prothero: Select Statutes and other Constitutional
Documents, illustrative of the reigns of Elizabeth and
James I.

S. R. Gardiner: The Constitutional Documents of the Puritan Revolution, 1625-1660.

O. G. Robertson: Select Statutes, Cases and Documents to Illustrate English Constitutional History, 1660-1832, with a supplement from 1832 to 1894.

以上四書は相連続して、英國憲法史に關する根本史料の體系を成して居る。スタッブスの *Select Charters* は大部分拉丁語の文書であるけれど、其中の重要なものは、前掲の

Adams & Stephens' *Select Documents*

の中、及び下に掲ぐる A. J. Robertson & F. L. Attenborough の著書中に英譯が出て居るから、多少の便利がある。此體系は律令、判決例其他憲法史に關する重要文書の外、各冊共に極めて價値ある緒論及び註釋が附いて居るから、學ぶ者に取つて、一層の便利がある。併し乍ら、是等の根本材料の寶庫から英國憲法の貴重な知識を取り出さうとするには、古文殊に難解なる古代法律文を讀破するの勞苦を忍ばねばならぬ。

F. L. Attenborough: The Laws of the Earliest English Kings.

A. J. Robertson: The Laws of the Kings of England, from Edmund to Henry I.

兩書共に晩近 Cambridge University Press から發行せられた

英國憲法史主要參考書 (占部)

英國古代の法令集である。アングロ・サクソン及びノルマン・フレンチの原文と現代英語と對照してあるから、學界に取つて非常なる貢獻である。兩書共に、註解と精密なる索引とが附いて居るから、一層便利である。

Herbert Broom: *Constitutional Law*.

一八六六年の初版で、今日にては其本文に多くの價値を認めないけれど、英國憲法に關する判決例の豊富なる點が本書の特長である。

Berol A. Bicknell: *Cases on the Law of the Constitution*.

英國憲法の少なからざる部分は慣習法から成立つて居るから、裁判所の判決例を研究することが、英國憲法史研究に取つて、極めて肝要である。本書は二百餘頁の小冊子であるけれど、頗る實用的なる判決例集である。昨年出版せられたから、最近の判決例まで含まれて居るのが、其特長である。

Luke O. Pike: *A Constitutional History of the House of Lords*.

貴族院の歴史を根本資料から研究したもので、此特殊の題目に就て、未だ本書以上の好參考書は看出されないであらう。

Edward Porritt: *The Unreformed House of Commons*, vol. I.

England & Wales, vol. II. Scotland and Ireland.

一八三二年選舉法大改革以前に於ける英國庶民院史の最も詳細に

(三五) 一三五

して、又最も權威ある參考書。

Walter Bagehot: The English Constitution.

英國憲法に關して最も人口に膾炙したる名著である。最初 *originally Review* に連載せられて、一八六七年單行本として發行せられた。一八六五、六年頃に於ける英國憲法の實際を叙述したものであるが、其第二版(一八七二年)には一八六七年の選舉法改革以後に於ける憲法上の變革を述べた序文を加へて居る。パーマストン時代に於ける英國憲法政治の實際的運用を、恰も目に窺ふがやうに活寫して居る。今はクラシックとして種々の版が行はれ、邦譯も一二出來て居る。

Sidney Low: The Governance of England.

バツオットと均しく、英國憲法を法律的よりも、寧ろ實際政治の運用の上から觀たもので、廿世紀の初頭に於ける英國の政治制度を説述した好著である。一九一四年の改訂版には、其後に於ける英國憲政の進展を叙した序論が附加してある。

A. V. Dicey: The Law of the Constitution.

英國憲法の理論を説いたもので、歴史には溯らない。本書は實際の政治思想、殊に憲法と憲法の慣例との間に劃せられに區別に依つて影響を與へた有名なる述作である。

Sir W. Anson: The Law and Custom of the

Constitution, vol. I. Parliament, vol. II. (2 parts) Crown.

英國憲法の各機關並に其運用の方法に就て、間々歴史的進展の跡に遡つて明細に叙述した、スタンダード・ワークである。政治的觀察よりも、寧ろ法律的に取扱つたもので、従つて政黨論等は全然閑却せられて居る。

A. Lawrence Lowell: The Government of England, 2 vols.

前書と反對に、英國の政治組織を主として實際政治の方面から叙述し、殊に政黨の組織並に歴史に就て細叙して居る。實に外界(著者はハーヴァト大學總長)から觀たる公平眼と、英國人及び英國風に對する精細なる知識とを以てするに非れば此の如くなる能はざる底の傑作である。

J. A. R. Marriott: English Political Institution.

英國憲法今日の實際運用をば、絶えず過去の歴史に參照して説明せんと試みた述作。一九二四年の第三版には、五十餘頁の増補を附して最近に於ける英國憲法の發達に及んで居る。拙譯『英國の憲法政治』の原著である。

F. Pollard: The Evolution of Parliament.

現に倫敦大學の英國史講座を擔當するポラード教授は、チュエードル時代の歴史に就ての最大權威である。一九二〇年に發行せられた本書は、英國會の進展に就て、最も根本的なる、又最も新らしい研究の見はれである。余は本書に依て得るところ極めて多かつたことを感謝せねばならぬ。

Edward A. Freeman: The Growth of the English Constitution.

二百三十頁の小冊子であるけれど、草創時代より近代に亘る英國憲法生長の潮流を概述して、能く其要領を得たる流石大歴史家の述作たるを失はぬ。

John Morley: Walpole

Twelve English Statesmen 叢書中の一なる本書は、内閣制度の發達に就て、是非參照せねばならぬ一章を含んで居る。

William E. Hearn: The Government of England, its structure and its development.

此書は英國の政治制度全般に亘つて述べて居るけれど、殊に内閣制度の歴史に就て好個の參考書である。

William E. Gladstone: Gleanings of Past years, 7 vols.

十九世紀後半に於て四度内閣の首班に立つた著者が王職、内閣、教會、其他の憲法上の機關並にヴィクトリア女皇の皇配アルバート親王に就ての觀察を記録した極めて重要な英國憲法史料である。殊に第一卷第五卷は最も重要な文献である。本書は現今英國に於ても絶版となつて居るけれど、慶應義塾圖書館には全部揃つて居るから、利用することが出来る。

Sir John Fortescue: Commendation of the Laws of England.

The translation into English of "De Laudibus Legum.

英國憲法史主要參考書(古部)

Anglia."

本書が十四世紀の末頃に於ける、英國の政治機關に就て説述した重要な史料である事は、本文(第七章(四)參照)に紹介したから、茲に繰返さない。

J. Howard B. Matheran: A History of the British Constitution.

// // The House of Commons, its place in National History.

前者は一般諸者の爲に、英國憲法政治の大要を年代順に平易に説いた者、後者は勞働階級の爲に庶民院の發達を通俗に講演したものの筆記。何れも英國憲法史の初學者に取つては好個の參考書。

Feilden: A Short Constitutional History of England.

三百五十頁足らずの小冊子内に、英國憲法に關する有らゆる重要な事實を壓搾した點に於て、本書の價值がある。編輯の仕方はデスクリップテイヴである。通讀するには少々倦怠を感じるけれど、好參考書たるを失はない。余も本書に於て少なからざる便益を受けたことを特記する。

Sir C. P. Ilbert: Parliament.

Home University Library 第一編である。英國會の歴史、構成

並に其議院法を簡明に叙した好參考書。著者は庶民院の書記官長であつた人だから、憲法の實際運用に就て精通して居る點が、本

書の特色である。

W. S. Holdsworth: A History of English Law, 9 vols.

一般英法の歴史は Pollock と Maitland との合著があるけれども、それはエドワード一世の治世で筆を止めて居る。草創時代から現代に亘つた一般英法史としては、ホルツシャルス博士の本書の外にないやうである。昨年完成した最新版は九冊に増補せられて、全然面目を一新した。第三、七、八巻を除いた他の何れの巻にも、英國憲法史に關する記述が豊富である。叙述の明快と、博引旁證が本書の特長である。精細なる目次と索引が附いて居るから、讀者に取つて非常に便利である。

以上列擧した諸書の外、左に掲げた政治史、一般歴史、政治家の傳記等の中から、英國憲政史に關する重要な資料を發見すること出来る。

Lord Macaulay: History of England, 4 vols.

Charles Oman (edited by): A History of England, 7 vols.

John R. Green: A Short History of the English

People, many editions.

// // History of the English People, 4 vols.

H. Hallam: View of the State of Europe during the

Middle Ages, volumes II. II.

S. R. Gardiner: A Student's History of England,

Ramsay Muir: A Short History of the British

Commonwealth, 2 vols.

G. W. Trevelyan: History of England.

Rev. William Hunt and Reginald L. Poole (edited by):

The Political History of England, 12 vols.

Cambridge Medieval History, Volumes I. II. III. V.

// // Modern History, 14 vols.

A. C. Benson and Viscount Esler (edited by)

// // Letters of Queen Victoria 1837-18613. vols.

Sidney Lee: Queen Victoria, a Biography.

Strachey: Queen Victoria.

G. E. Buckle and W. F. Monypenny: The Life of Benjamin

Disraeli, Earl of Beaconsfield, 6 vols.

John Morley: The Life of William Ewart Gladstone, Library

Edition, 3 vols; Popular edition, 2 vols.

Charles S. Parker: Sir Robert Peel, 3 vols.

Earl of Oxford and Asquith: The Genesis of the War.

// // Fifty Years of British Parliament, 2 vols.

Sidney Lee: King Edward VII., a Biography, vol. I.

(from birth to accession) 占部百太郎